



徳嶺勝信

沖縄の市民団体のベトナムホイアンでの活動に関してあらためてご紹介いたします。昨年12月、国際協力機構（JICA）の草の根事業で、沖縄リサイクル運動市民の会が主催したワークショップと環境展に参加した感想です。

ホイアン市はベトナムの中部に位置し、世界遺産にも登録されています。古くから日本との交流もあり、旧市街には日本街も形成されています。歴史・文化と自然が楽しめるアクティビティが充実していることから、近年人気が急上している有数の観光地です。

ここで2008年、那覇市とホイアン市のごみ分別支援事業が始まりました。その後、沖縄リサイクル運動市民の会が事業を継続し、今年で10年目を迎えます。

ワークショップでは、ホイアン市の市長や、人民委員会の副委員長など各界のトップが集まり、ごみ分別などの意識改革を促す啓発活動の紹介や、沖縄県での環境事業研修派遣者が延べ54人を超え、ホイアン市の環境問題に大きく貢

ごみの分別 沖縄が貢献

ベトナム

献している成果などが発表されました。私はこれほどまでに地元と密着し、成果を上げている活動は今まで見たことがありません。

環境展も印象的でした。お金をかけた盛大なものではありませんが、地域住民、地元企業、沖縄からの企業5社が参加し、地域の小学生が描いた環境に関連した絵などが展示されました。中でも子どもたちが描いた絵の色使いがとても鮮やかで、明るい未来を描いているように感じられました。

地元ホイアンのホテルも廃材の有効利用の活動を展示していました。昨今、注目の紙ストローも何年も前からすでに使われていることが分かり、意識の高さを感じる事ができました。

残念ながら、10年の節目での事業は終了になるとのことです。しかし、これまでに築いた人と人のつながりは継続させる必要があります。異国の地ではこれが、かけがえのない財産になることを認識してほしいと思う瞬間でもありました。海外で長きに渡り活動を継続し信頼を築くのは大変なことです。この信頼を生かした次の展開に発展させていくことも大事なことで改めて感じました。沖縄人として誇りに感じ、多くの皆さんに伝えたいと思った次第です。（VINACOMPASS代表）

次回は韓国の大嶺浩次・世一旅行社販売課次長です。